

目白大学新聞



編集
目白大学社会学部
メディア表現学科
〒一六一八五三九
新宿区中落合四一三二一
TEL
〇三一九九六一三三〇

「目白大学新聞」ウェブサイト
http://www.mejiro.ac.jp/univ/mu_journal/index.html

学園祭へ行こう!

今年も目白大学の新宿キャンパスの学園祭「桐和祭」(10月20・21日開催)と、岩槻キャンパスの「桐栄祭」(同月27日・28日)が近づいてきた。「桐和祭」のテーマは、「和んだ full 桐 days」、その一週間後に行われる「桐栄祭」は「Link to Smile」(笑顔でつなぐ)をテーマとして掲げている。

ワンダフルトゥーデイズ 和んだ full 桐 days



今年の桐和祭にはなかったものだ。「ミスコン」は、ポスターや桐和祭のホームページなどで宣伝しているため、すでに周知の方も多いことだろう。「ミスコン」のプログラムも開設され、候補者たちが大学生活や地域行事などを書き綴っている。

「遊園地」は、来場する子供たちに楽しんでほしいという意図から企画されたものである。遊具を作ったり、借りたりして実際の遊園地のように子供たちが遊べる場所を作り、大学生と子供たちが一緒に楽しめるようにするのが狙いだ。もう一つの企画は、「遊園地」である。双方とも、去年の桐和祭にはなかったものだ。「ミスコン」は、ポスターや桐和祭のホームページなどで宣伝しているため、すでに周知の方も多いことだろう。「ミスコン」のプログラムも開設され、候補者たちが大学生活や地域行事などを書き綴っている。

成人に向かう目白大学 成人年齢引き下げ議論、何歳から「大人」?

目白大学は今年で創立18周年を迎え、20周年に向けて「ハタチのアクション(ハクシヨンPROJECT)」が進行中である。来年には、目白学園創立90年、短期大学50年、4年生大学の目白大学は「成人」、「大人」になろうとしている。新入生のなかには目白大学と同じく18歳の学生も多いだろう。そのような中、成人年齢を20歳から18歳に引き下げる議論がなされている。18〜19歳の人口は約244万人(平成23年度10月)。引き下げが実現すれば、多くの新たな有権者が増えることになり、政治に新風を巻き起こすかもしれない。

成人年齢引き下げ議論が始まったきっかけは、平成19年5月に新しく成立し、施行された「日本国憲法改正国民投票法」(以下、国民投票法)で投票年齢を18歳以上に定めたことにある。本則で投票権を18歳以上としたことと、民法や公職選挙法(選挙権を含む国政選挙等に関する法令)といった関連法令の成人の定義を統一して「18歳以上」とすべきか議論が高まってきた。成人年齢の引き下げ議論の行方は様々な分野に影響する。年齢制限のある関連法令は、飲酒や喫煙から少年法など308にのぼる。

引き下げが実現すれば、それらにも大きな影響を与えると見られている。これは、簡単に結論が出せる問題ではなく、国民一人ひとりが

考えていかななくてはならない大きな問題といえるだろう。そもそもなぜ成人年齢は20歳と規定されたのか。明治初頭に発布された徴兵令(満20歳以上の成年男子の兵役義務を定めた法令)が関係していると考えられている。これに引きずられるかたちで、明治29年、民法第4条にて「満20歳にて成人とする」とされたと思われる。このことからわかるように成人年齢が20歳である明確な理由はない。民法が制定されたときに「成人≒20歳」という考えが一定の社会通念化していたためと思われる。

(4面へつづく)

「学び」を楽しもう

学びフェスタ初開催



— Link to Smile (笑顔でつなぐ) —

方に来てもらえませんか。だから、「大学の学園祭」になってしまおう。目白の桐和祭は、そういうのではなく地域の、言ってしまうと神社のお祭りみたいなテンションでやっていきたいと考えています。桐和祭を中井や落合などの「地域の「お祭り」として認知してもらおうことが委員長の理想である。大学は、その周辺地域があつてこそそのものだ。その地域がないがしろでは「大学の学園祭」で終わる。そうではなく、地域一体で一つのお祭りを作っていきたいという。保護者や学生、地域住民と一緒に参加することに、学園祭は真に盛り

上がるというわけだ。桐和祭の一週間後に行う桐栄祭でも、豪華景品を獲得できる「ピンゴ大会」。実際に聴導犬と一緒に生活している方の話や、体験することが出来る「聴導犬体験コーナー」や、毎年恒例の「花火大会」がある。これ以外にも多くの魅力的な企画がある。また、岩槻キャンパスを受験する学生向けとして、在学生スタッフによる「体験コーナー」や、「在学生相談」、希望者には「入試相談」も実施される。二週間にわたつての目白大学の学園祭。ぜひ多くの方に足を運んでいただきたい。みんなで学園祭を盛り上げよう。(編集部3年 阿形宏一)



桐栄祭キャラクター めじ郎

今年初の企画である学びフェスタが8月11日、12日のオープンキャンパスで開催された。来場者は新宿・岩槻両キャンパス合計で約5000人。「いろんな授業を受けてみたい」「目白大学や目白短大の学びをもっと知りたい」といった声から開催が実現した。学びフェスタとは、オープンキャンパスに参加した高校生が、時間割表の中の授業を自由に選択して大学の授業を体験してみようというもの。授業は全部で104講座が用意されている。様々な学科の様々な先生の授業を体験できる貴重な機会だ。授業は1講座40分で、1時間目から3時間目まで。学科によっては1時間しかないものもあるが、ほとんどの学科が3時間目まで授業を行った。また、大学の授業だけでなく、放課後特別講座として、AO・推薦入試対策の「小論文の書き方」や一般入試に向けた「夏休みの過ごし方」についての講座も開かれた。受験生にとって夏休みはとても大切な時期だ。その時期の過ごし方を知ることができたのは心強いだろう。(編集部3年 新井麻衣子)

大学の授業は高校までとは大きく違う。しかし、それを高校生の間に知る機会はとても少ない。オープンキャンパスを見に行っても、大学の建物の雰囲気や大学に備わっている設備について知ることができない。もちろん、大学を知るためには重要なことだが、授業は学校生活の基本である。学びフェスタは大学の授業はどういったものであるかを知りたい機会である。また、学びフェスタではバッチラリーも行った。1講座につき1つバッチがもらえる。このバッチを3つ集めると、大学のオリジナルグッズがもらえる。バッチの種類は16種類あり、学科ごとに異なる。大学の授業を受けた記念に集めてみるのも楽しいのではないだろうか。大学の授業の様子を体験することができる「学びフェスタ」。これは受験生にとって、とても貴重な体験であろう。これらの受験生たちのためにも、第2回、3回の学びフェスタが開催されることを期待する。(編集部3年 新井麻衣子)



「スマートフォンはお持ちですか？」

現在、スマートフォンの普及率は、日本全国で約4割近くにまで達しているといわれるが、目白大学ではどうだろうか。目白大学の学生215人にスマートフォンに関するアンケート調査を行った。

7割以上が持っている

スマートフォンを持っていると回答したのは、158人で、調査した学生の約73%が持っていた。購入理由として、「便利そうだった」という回答が全体の8割を占めたが、就職活動のために購入したという4年生による回答も見られた。

実際に使用しての意見を尋ねると、アプリや操作性が期待以上だったという回答が非常に多かった。その反面、電波の感度やバッテリーに対し期待以下という回答が多く見られるなど、なにかしらの不満をスマートフォンに抱く人は多いようだ。

ただ、従来の携帯電話よりもスマートフォンの方が便利であると回答したのは、全体のおよそ9割に

及ぶ、134人であった。不満は確実にあるが、それでもスマートフォンの利便性は高く評価されているようである。

スマートフォンを持っていないと回答した57人は、どのような考えを持っているのか。なぜスマートフォンを利用していないのかという質問に対し、約半数が、「今使っている携帯電話がまだ使えるから」と回答した。今後購入する予定があるかという質問では、「未定」という回答が最も多かったことから、今使っている携帯電話が壊れるまで買い替えないと考えている人が多いようだ。スマートフォンに興味がない、今後も購入の予定はないという回答も少数だが存在した。

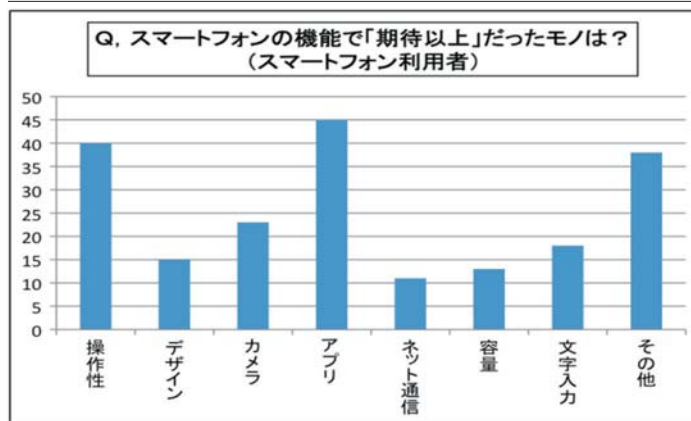
スマートフォンで災害対策

昨年の震災以降、スマートフォン・携帯電話を問わず、利用している防災関係のアプリやサイトも調査した。

災害対策に利用しているという回答が多かった。アプリでは地震情報を知らせる「ゆれくるコール」や懐中電灯アプリの利用が多いようである。

～アンケート調査で挙げた防災関係のアプリ・サイト～

- アプリ
 - ・ゆれくるコール
 - ・懐中電灯アプリ
 - ・なまず速報β
 - ・避難経路確認用アプリ (MapFan など)
- サイト
 - ・災害用伝言板
 - ・Flood Maps (浸水被害予測サイト)
 - ・ツイッター (地震速報など)



今回の調査で、目白大学内のスマートフォン使用率が非常に高いと分かった。おそらく今後も、着実に増えていくだろう。従来の携帯電話を全く見なくなる日もそう遠くはないのかもしれない。

(編集部3年 増田峻也)

学生時代、先生のなかでもひと際インパクトがあり学生から人気の先生はいなかっただろうか。目白大学にも授業中のインパクト・パフォーマンスが抜群で、学生から絶大な人気を誇る先生がいる。それが、短期大学部ビジネス社会科学科の鈴木健之教授だ。

社会学が専門の鈴木先生は「ロックス・コミュニケーションの社会学」や「社会学概論」などの授業を受け持っている。常にハイテンションであるだけでなく、心をガッチリと掴む話術で先生の



短期大学部ビジネス社会科学科 鈴木健之 (すずきたけし) 教授

人気教授紹介「授業はライブだ」

短期大学部ビジネス社会科学科 鈴木健之 教授

独自の世界に引き込まれてしまう。先生自身が授業を楽しんでいることが、学生たちにも伝わってくる。そのため授業が楽しく、より一層集中して勉強

先生「明くるお洒落ですよ。特に女の子は元気、男の子はおとなしい印象かな。それに目白大学生は熱心ですよ」

先生「やっぱり、教えたことが学生に

伝わっているようにみえて伝わっていないということがあるんですよ。だから、ちゃんと伝わっているかどうか確認するためにリアクションペーパーを書いてもらっています。結構、適当に書く人がいるんですけど、これは具体的にしっかりと書いて欲しいですね。た

だ授業の感想を書くのではなく自分が思ったことを伝えてほしいです。あと、授業では、自分が思ったこと感じたことをそのままストレートに伝えるようにしています。教科書通りの授業だとつまらないですし、それなら教科書を読んでもおけばいい。授業の醍醐味は『すぐわかる』ということ。先生が要点を

伝え、生徒はわからないところがあ

今ある自分を楽しみなさい

最後に、目白大学生に伝えたいことはありますか？

先生「今を存分に楽しむことですね。今しかできない体験をいっぱいしておくこと。高校生とは違って、大学生なのだからできることはたくさんあるはず。私の父の言葉なんですけど『今ある自分を楽しみなさい』って」

(編集部3年 斉藤絵梨)

目大の魅力 学生の生の声

目白大学に通う学生は目白大学をどのように思っているのか。大学のいいところ、改善して欲しいところを学生に聞いた。

目白大学のいいところ

「教授が面白い」「都心に近い」「パソコンの設備が整っている」などたくさん意見が挙がった。その中でも、最も多かった意見は「自然が豊か」であった。詳しく話を聞いてみたところ、「木によって日陰ができて涼しい」、「緑を見ることで心が癒される」という意見が多かった。

緑が豊かな目白大学は別名「森の学園」とも呼ばれる。新宿キャンパス内に生育している植物は700種類を超えており、美しい景観を構成するだけでなく、野生生物が息する空間としての役割や環境対策にも効果がある。

また、目白大学は環境対策にも取り組んでいる。キャンパス内の緑化はヒートアイランド現象の緩和に貢献し



目白大学の豊かな自然



喫煙所外、テラス通路でタバコを吸う学生たち

ており、10号館では屋上緑化を行い、舗道では透水性インターロッキングを採用し雨水を土壌に還元している。また、昆虫や鳥なども数多く生息しており、都心の生物にとっても重要な環境となっている。

一方、改善してほしい点は

目白大学の改善してほしいことを学生に聞いたところ、「喫煙所を広くしてほしい」という意見が多かった。非喫煙者は「1号館の喫煙所隣の通路を通るとき、煙草を吸っている人が外にもいて、迷惑だと思ったことがあります。喫煙所を広くして外で吸わないようにしてほしい」と言っている。喫煙者も「喫煙所を広くしてほしいです。昼休みに喫煙所に来ると、人がたくさんいて入れないので外で吸っています。喫煙所を広くしてくれれば外で吸わなくなり、喫煙所の傍を通る人に不快な思いをさせることもなくなると思っています」と話す。吸う・吸わないにかかわらず、喫煙所を広くしてほしいという学生はいるようだ。

(編集部3年 泉明宏・小松諒治)

就活は婚活と似ている。

就職活動に励む学生は、何が一番辛いのか。企業選びや、エントリーシートの記入はもちろろん、落ちたときの精神的ダメージはやはり大きいようだ。自分に合った企業を探し、その企業のことをよく知り、自分を知ってもらうためにアピールをする。そして、内定がもらえらるか、それとも落とされるか。何十社と受けて全滅することもある。

この流れは、どうやら婚活と似ているらしい。自分に合った人を探し、相手を知り、アピールし、結婚できるか、できないか。何十人もの人に振られ続けて、落ち込まない訳がない。そんな辛い思いを乗り越えられる精神力が、就職活動には必要なのだ。

「交通費問題」？「お祈りメール」？

就職活動で大変なことはたくさんある。しかし、覚悟していた苦労だけではない。企業説明会や面接などで、いろいろな場所に行かなければならない就活中、とにかく交通費がかかる。学生にとっては一番辛い金銭面の苦労。活動中の交通費をどこから捻出するのかも、就職活動をスムーズに進めるポイントだ。

また、就職活動で企業から送られる不採用通知が話題になっていることをご存じだろうか。容易に内定がもらえる学生はわずかだ。多くの就活生が不採用通知を何度も受け取る。その不採用通知の文末が「まずまずの御活躍お祈り申し上げます」といった一文で締められていることから、就活生の間で「お祈りメール」と呼ばれている。内定をもらえなかった企業から「お祈り」される就活生の心情は複雑だ。

困ったときは・・・

目白大学には、学生の進路を支援するキャリアセンターが設置されている。キャリアセ

キャリアセンター 就活生の「駆け込み寺」

ンターでは、就職ガイダンス講座や就職情報サイト「求人NAVI」の運営を行っている。また、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）やGCCDF（グローバル・キャリア・デベロップメント・ファシリテーター）等のキャリア形成を推進するための資格を保持するキャリアカウンセラーが5名常駐しており、学生の各種相談に対応している。

就職活動中の学生への取材で、キャリアセンターの利用度の高さに驚いた。エントリーシートの添削や、受けた企業との相談などをしてもらえるキャリアセンターだが、「駄目だったときに話を聞いてもらいに行く」や、「自分の性格に合った仕事は何なのかを一緒に考えてもらった」など、学生に親身になって話をしてくれることが多かった。何年も就職活動に関わってきたキャリアカウンセラーの方々は、様々な学生に合ったアドバイスをくれる。悩める就職活動中の学生にとって、キャリアセンターは「駆け込み寺」のような存在なのだ。

キャリアカウンセラーの長谷川圭さんにお話を伺った。キャリアとは、仕事を中心とした人生設計をすることであり、就職することが全てではない、と考える学生たちと接しているそうだ。就活生だけでなく、進路や将来、学生生活に悩んでいる全ての学生のためのものである。「キャリアセンターが就活生のためにあると思われがちだが、ただ話をしに来るだけでもいいんです。もっと、1、2、3年生にも、キャリアセンターを利用してほしい」と。

実際、就職活動を開始するまでキャリアセンターを一度も利用したことがない学生は多い。自信を持って就職活動に挑むためにも、学生たちにはより有効にキャリアセンターを利用してほしい。

（編集部3年 後藤奈菜）

図書館、賢く利用していますか？

〜知って得する5つの図書館利用法〜



1 宿キャンパスの図書館には、文献や雑誌を含め約26万冊以上の種類の本がある。もし読みたい本が見つからなかった時はどうしたらよいのだろうか。そこでまず紹介したい1つ目の機能が**目白大学の他キャンパス・他大学からの貸借機能**である。図書館に入つてすぐ横にあるカウンターにてその旨を伝えると、借りるために必要な書類の申請について補助をしてもらえる。

プ型も置かれており、もちろん持ち込みしたものも使えるようになっている。さらにカウンターで申請をすれば**ノートパソコンを3時間借りることが可能**である。利用範囲は館内だけとなり、その場での印刷は不可だが、レポートなどで忙しい時期は大助かりである。

2 つ目に、購入してほしい本や資料がある時は「**リクエストサービス**」がおすすめである。所定用紙に記入をして申し込みをすると、後日検討結果が張り出され購入の有無が決まる。この検討基準

知られていない機能が**「朝日新聞デジタル」**である。今年の4月から館内のパソコン1台にだけ導入を始めたのだが、図書館司書の植原由美子さんに尋ねたところこの朝日新聞デジタルの利用質問があまりなく、利用者がとても少ないそうだ。これは狙い目である。就職活動には必須となる時事問題対策など、ぜひこの機能を有効に活用してほしい。

3 つ目に、授業の空き時間にはぜひ「**視聴覚コーナー**」を利用してみよう。ここではヘッドフォンをカウンターから借りることで、図書館からの貸出DVDはもちろん自分で持ち込んだDVDを視聴することが可能なのだ。授業が1つ空いてしまうと90分の時間が出来る。そんな時はぜひ好きなDVDを視聴してはいかがだろうか。

しかし私たちがこれらを利用するために規約やマナーをきちんと守ることが前提である。すべて



開館日：月～金 9:00～21:00 / 土 9:00～17:00
休館日：日曜日、創立記念日 その他詳細はHP参照

の人が気持ちよく利用できるような心がけよう。
また、今年の桐和祭では図書館も復刻本の展示を行う予定である。普段図書館は一般開放されていないのでこの機会に保護者の方にもご覧いただきたい。
（編集部3年 久保木沙織）

作業療法士(OT)のたまご

岩槻キャンパス 心理学部



作業療法士を目指す中村梧さん

目白大学岩槻キャンパスには保健医療学部と看護学部があり、4つの学科で構成されている。その中でも今回は作業療法学科にスポットライトを当てた。

作業療法は心身に障害を持つ人、老年期に障害を持つ人、発達期に障害を持つ子供を対象にしている。作業療法学科は、患者さん一人ひとりに合わせた作業を治療

OTまでの道のり

中村さんは高校ですぽーツをしてきて、怪我をするたびリハビリをしてもらっていた。その時に作業療法士という仕事に興味を持ちこの学科を選んだという。また、知人もリハビリを行って

として取り入れ、基本的能力、応用的能力、社会的能力の3つの能力の維持及び改善をサポートし、患者さんに信頼される作業療法士の育成を目指している。

なぜ作業療法学科を選んだのか、どんな作業療法士になりたいか。作業療法学科3年の中村梧さんに話を聞いた。

「ADL日常生活」や「ADL日常生活」や「老年期障害治療学」の授業は「ADL日常生活」と「老年期障害治療学」の授業だそうだ。「ADL日常生活」は障害を持った人がどのような工夫をしたら普通の生活に近づくことができるかを考える授業である。また「老年期障害治療学」は老人のなりやすい病気と老人とどのように接するかを考える授業だ。このような授業を踏まえて実習を行う。実際に高齢者と触れてみると、ネガティブな発言をする人が多い。相手の感情が不安定な

（編集部3年 渡辺未祐）



学生が発信するテレビ



「めじてれば」をご存じだろうか。社会学部メディア表現学科の学生が企画、撮影、編集のすべてを行っている番組であるが、ゼミの活動の一環としてではなく、「ケーブルビジョン新宿」と契約を結び、毎日4回放送され、YouTubeでも観ることができ、大学が外に向かって発信している番組なのだ。

今まで撮影された企画は「就活生による就活生のための就活講座」、「江戸散歩 in 神楽坂」、「東日本大震災その時わたしは」3・11目白大学の記憶」など。これはほんの一部であるが、学生に限らず保護者、そして新宿区民の視聴者にも関心が持てる内容となっている。

例えば、5月放送の番組では、「マナー講座」を取り上げた。ミニドラマからその場にあった正しい発言・行動を学ぶことができる。また、巣鴨を訪れている方に「若者言葉」についてインタビューを行っている。学内の話題に限らず、地域に密着した番組作りにも力を入れている。今回取材をした7月の企画のひとつ「落合散歩」のディレクター担当、メディア表現学科3年守田茜さんによると『落合散歩』はフリーペーパーを制作、頒布をされている方から目白大学のある中井・落合を歩くツアーのご紹介を頂き、それに付随する



→本格的なカメラを使用し撮影

ケーブルビジョン新宿

- ・10:30~10:55
- ・14:30~14:55
- ・19:30~19:55
- ・21:30~21:55

公式HP
http://info-m-tv.net/

公式ブログ
http://ameblo.jp/mejitv/

twitter @mejitv

形で取材を行うことになりました。ゼミ生全員で中井・落合について学ぶ事が出来た良い機会でした」とのこと。ゼミ生が丸となり番組作りに取り組んでいるものの苦勞も多い。守田さんは「以前とある場所でロケを行った際に人通りが多く、三脚を立てて撮影をすることが難しかった事がありました。その時、私は音声を担当していたのですが、通行する人の邪魔にならないようにマイクを動かしたりと、非常に苦勞した思い出があります」と語ってくれた。

『めじてれば』は「ケーブルビジョン新宿」にて毎日4回放送中だ。東京以外の方もご安心を。公式ホームページからリンクを利用し、YouTubeでの視聴も可能だ。詳細は公式ホームページ、ブログ、ツイッターにて確認することができる。学生によるテレビ番組をこの機会にぜひご覧いただきたい。

(編集部3年 柳田梨穂)

作品を通してリーダーを育てる

4号館1階のフロアにはひと際目を引く個性的な壁面装飾がある。これは人間学部子ども学科おかもとみわこ教授ゼミの3年生が約1ヶ月かけて制作した作品である。この個性的な作品を生み出すおかもとゼミは造形や美術のゼミだ。桐和祭で4号館全体を装飾するなどの作品制作を活動の中心としている。また、作品と子どもの関わりについての研究等をしている。

おかもと教授はリーダーを育てたいという。ゼミの方針には「1人でできることは少ない。グループで仕事をすることが大切。2.自分で一所懸命考えて物事にあたる。3.善意ある他人への関心。4.相手を思いやる心」の4つがある。おかもとゼミの学生は基本方針を常に心に留め日々のゼミ活動を行っている。これはリーダーに必要な心得であると言えるだろう。これらのリーダーの素質を身につけるための活動として、壁面装飾や毎年恒例で行われる桐和祭での4号館の装飾がある。

おかもと教授は「作品の良し悪しではなく、その過程が大事」と言う。その言葉のもとゼミ生は豊かな個性を生かし基本原則を軸に制作を行う過程でコミュニケーションの大切さを学ぶ。その中で強い人間関係が築かれ一人一人が良いリーダーになる素質を身につけていく。良いリーダーとは人によって育てられる。これこそが、おかもと教授が学生に指導していききたいことなのだ。

コミュニケーションが生む絆

近年IT産業の発達により、大人も子どもも人と対話する機会が少なくなつたと、おかもと教授は指摘する。コミュニケーション能力の低下は想像力や表現力の低下にも繋がるという。だからこそ、学生とのコミュニケーションを大切にしたいと



おかもとゼミが制作した壁面装飾



さらに、おかもと教授は、学生と保護者とのコミュニケーションにも重点を置いている。ゼミの活動上、夜遅くまでの制作作業になる場合もある。そのため、保護者との信頼関係も大切にしている。おかもと教授は「学生にご両親に会わせてとよく言うの」とおかもと教授は微笑んだ。教授の元へ訪ねてくる保護者の方もいるそうだ。

おかもとゼミ副ゼミ長の永井真子さん(22)を始めとした4年生は、こうしたコミュニケーションから「輪」が生まれるという。「輪」とは信頼と絆だとゼミ生たちは語った。ゼミの活動を通じて、お互いを讃えあい、その言葉の掛け合いから輪ができる。しかもそれが自然に出来るのが教授のコミュニケーションだと明くる語る。おかもと教授のコミュニケーションの大切さは学生へとしっかりと伝わっていた。

おかもと教授が育てたいリーダーの姿とは、信頼と絆の輪を広げ仲間の魅力を最大限引き出せる人材なのかも知れない。

(編集部3年 渋谷愛美)

若者の政治参加

(1面つづき)

引下げの最大の狙いは、若者の政治参加である。若い世代の声を政治に反映することで、年金や財政赤字など世間の不公平や将来の負担増について、当事者となる世代の声を広く取り入れることにつながる。さらに、新たな有権者が生まれて社会的な関心が高まれば、若年層の政治離れを食い止めるきっかけとなるだろう。有権者の層を広げるといえる考えは、「できるだけ多くの人が政治的な意思決定に参加する」という民主主義の理念に合致する。

また、親の同意なしに財産の取得や処分ができるため、経済活動が広がり、経済的にも良い影響を与える可能性がある。

若者6割「20歳から成人」

一方、当事者である若い世代の人々は成人年齢引き下げには消極的な姿勢だ。NPO法人ドットジェイピーが平成19年4月、全国の大学生430名に実施した国民投票法案意識調査によると、約6割の学生が「成人年齢は20歳からが良い」としている。理由としては、「社会に対してある程度の判断能力をもっていることが必要である」という意見が大多数を占めた。18歳を成人とするには判断能力が乏しいため反対だというのだ。確かに、18歳はまだ高校生であり、自分で物事を考えるよりも教師に教えられたことを鵜呑みにする傾向がある。政治を批判する力がなく、ポピュリズムに流されてしまう恐れもある。

政治教育の必要性

国会国立図書館に資料がある185の国や地域の選挙年齢をみると、18歳を基準にしているのが154カ国(83%)に対し、20歳を基準にしているのは日本や台湾、カメルーンなど7カ

国(4%)に留まる。世界的な潮流は「成人18歳」であることがわかる。ちなみに、海外では「社会に対してある程度の判断能力を持つているのか」という不安要因を解消するために様々な教育が行われている。例えば、ドイツでは州ごとに中等教育段階から「政治教育」の教科を設けている。子供の頃から政治問題への関心を高め、合理的な判断能力や政治に参加する能力を身につけることを目標に教育が行われている。

このように、若者が早期に社会経験を積み、社会人としての知識やスキルを獲得できるような環境の提供を日本でもするべきだ。日本での教育は、政治の理解にとどまりがちで政治的な判断能力や参加能力が養えるプログラムになっていない。成年年齢を引き下げるとは、一定の環境整備をする必要があるということだ。

「自分なら何歳」

18歳は大人か。何歳から大人か。私たち学生に深く関わってくる重要な問題である。まずは「自分なら何歳から成人か」と考えてみるころからはじめてみてはどうだろうか。

(編集部3年 坂本真澄)

編集後記

目白大学はもうすぐ二十歳を迎え、私たち大学生と同じ年頃になります。そこで「成人」とはどういうことなのかを考えるきっかけとなる記事を一面に掲載しました。また大学のことをより知ってもらいたいという思いから「学園祭」の記事を載せました。私たちがこの新聞を作り上げることができたのは、たくさんの方々のお力のおかげです。本当にありがとうございます。今学期から新聞は年2回となり、次号は来年2月末の予定です。乞うご期待。

編集長3年 新井麻衣子